

寄宿舎便り



令和6年1月12日発行

第13号

文責 佐藤

令和6年が始まりました！みなさん、どんな冬休みを過ごされたでしょうか？「1月=いく」「2月=にげる」「3月=さる」と昔から言われるように、3学期はあっという間に過ぎていきます。体調管理に気を付けつつ、寄宿舎での時間を大切に過ごしてほしいと思います。

(佐藤)

ゆず風呂

12月21日(木)、寄宿舎での今年最後のお風呂はゆず風呂をしました。ネットに入れたゆずを湯船に浮かべたり、ゆずに触って大きさや表面のでこぼこを感じたりしました。また、搾ったゆずを洗面器に入れて置いて、お風呂場だけでなく脱衣所までゆずの香りに包まれ、みんなで香りも楽しみました。舎生からは、「ゆずが大きくてびっくりした！」「良い香りだった。」「落ち着く香りでリラックスできました。」といった感想が聞かれました。

(田川)



おおき〜い！



良い香りでリラックス♪



2月行事

- 1日(木) 誕生者紹介放送
- 5日(月) 豆まき
- 15日(木) 役員会
- 29日(木) 卒業生を囲む会
- 2月19日(月)～3月1日(金) 個別面談・保護者懇談(高卒以外)



熊本聾学校と交流ビンゴ大会を行いました♪

～ビンゴ大会前の様子～

12月11日(月)18:15から熊本聾学校の舎生(以下聾舎生と表記)と交流ビンゴ大会を行いました。聾舎生と交流行事を行うのは約4年ぶりになります。この日のために、双葉会役員のAさん、Bさんは9月から聾学校の役員4名と何度も話し合いをし、準備を進めてきました。今回ビンゴをすることになったのも、役員同士の話し合いで決め、ビンゴに欠かせない賞品も、両校役員が寄宿舍職員や舎監の先生方にスポンサーとして賞品提供の依頼をし、舎監以外の学部の先生方も協力して下さい、たくさんの賞品が集まりました。

また、本校舎生(以下盲舎生と表記)は、聾舎生と手話で話をするため、事前に自分の名前を手話で練習し、会話する際は、ゆっくり、はっきり話をする事や、相手の方を見て手話や話をする事などを学びました。聾舎生も、手話だけではなく、口話で話をする事や、名前カードを作成し、盲舎生と職員にプレゼントしてくれました。両校舎生共に、当日をととても楽しみにしていました。

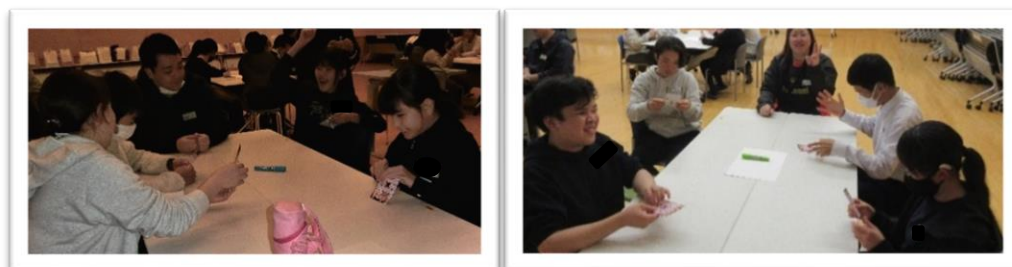
役員のAさんは、はじまりの言葉と終わりの言葉を、Bさんは、ビンゴのルール説明を、聾学校の役員と一緒に行いました。2人が話す言葉を、隣で聾舎生が手話通訳してくれました。それぞれ息ぴったりでした。



～ビンゴ大会当日の様子～

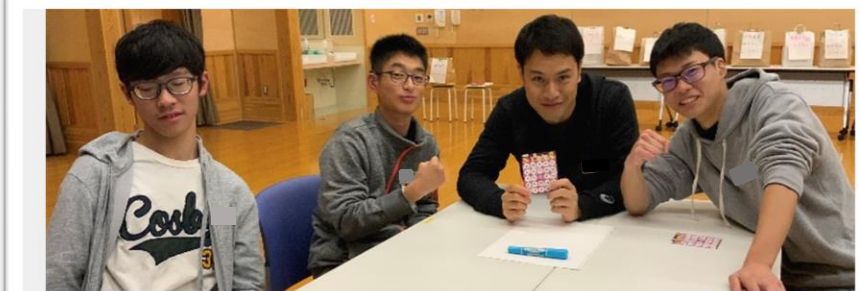
今回は交流行事ということもあり、盲舎生2名、聾舎生2名の4名1チームのチーム戦です。ビンゴ開始前には、チームごとに自己紹介をし、趣味を聞いたり、好きな食べ物を聞いたり、チームごとに特色ある自己紹介で盛り上がりました。

いざ、ビンゴが始まると、チームで一致団結し、数字が呼ばれる度に「あった!」「ない」という声や、「数字ある?」「あるよ」「ここあけられるよ」など、自然な形で身振り手振りを交えて会話をする姿が見られていました。同じチームのメンバーが「リーチ」になるとチーム全員で喜びを分かち合う姿や、先にビンゴになった舎生が残りのメンバーを手伝ったり、一緒になって出てほしい数字を祈ったりする姿が見られました。その姿は7チーム全てにおいて見られ、まるで長い間一緒にいるかのような打ち解け方に驚きと感動で胸が熱くなりました。



～舎生の感想より～

- ・久しぶりの交流楽しかった。話すときに自然と手が動くようになっていた。
- ・ビンゴ楽しかった。聾舎生は思ったより話しやすいと思った。
- ・楽しかった。聾舎生ともっと会話したかった。言葉の壁ってこういうことかと思った。次回の交流では、もっと会話を楽しみたい。
- ・小学部の見学旅行以来、久しぶりに聾舎生（同級生）と同じチームで会話ができた。相手も自分のことを覚えていてくれて嬉しかった。またやりたい。
- ・聾舎生と話ができ、いい交流になった。食堂や廊下で会えるので、そこでも交流が持てたらいいな。



～参加した職員より舎生の素敵な様子～

- ・ビンゴ大会に参加するため、どの洋服を着ていこうか悩み、お気に入りに洋服を選んでいった。身だしなみやTPOに合わせた衣服選びが自然とできていた。
- ・恥ずかしがりやで、人見知りをする舎生が、自己紹介の場面で、自分から手を挙げ「私からします」と積極的だった。
- ・ビンゴ中で、お互いに数字を見せ合ったり、応援したり、穴を開けられない時は「ここであってる？お願いあけて」など助け合ったりする姿が見られた。
- ・盲舎生は、OKや○のサインを手で作って、相手を意識したコミュニケーションをとっていた。
- ・チーム最後のビンゴ待ち舎生のことを、数字が読み上げられるたびにみんなでその舎生のカードをのぞき込み、とてもチームとしての一体感があって見ていて微笑ましかった。
- ・終了後、聾舎生からも「ビンゴ面白かった。個人よりもチームのみんなでやるほうが楽しい。」と言っていた。お互いにとっていい交流になったと感じ嬉しかった。



ビンゴの途中、サプライズでサンタが登場しました！チームごとに出てほしい数字を話し合いで選び、サンタがチーム名の書いてあるクジを引き、そのチームの数字は開けていいという演出でした。会場からは、「もう1回、もう1回」とアンコールが沸き起こり、大盛り上がりでした♪



～ビンゴ大会翌日以降の舎生の様子～

- ・玄関で下校がCさんと聾舎生（同じチームだった）がたまたま一緒になり、職員がCさんに聾舎生がいることを伝えたところ、Cさんが声をかける様子が見られました。
- ・朝食時、Aさんが盲職員に手話の「『おはよう』はどうするんですか？」と尋ね、マクラを下ろすポーズと伝え、聾舎生へ『おはよう』と手話で挨拶する姿がありました。
- ・盲職員が玄関にいと、聾舎生が話しかけてきて、「〇〇先生ですよ？」と名前を呼んで、「ビンゴの賞品でディズニーのぬいぐるみが当たって、すごく嬉しかったです。今、一緒に寝ています」と教えてくれました。

今回の交流行事を通して、聾舎生と盲舎生が生活を共にする仲間として、お互いを意識するきっかけができたのかなと思っています。今後も、この交流を足がかりとしてさらに日頃から自然に会話ができるよう交流が深めていけたらいいなと思います。（甲斐）

ビンゴ大会楽しかったね☆